

シリーズ
男女共同参画

輝く笑顔
いちかわみさと

＊第37回＊



■いちかわみさとフォーラム
■町民アンケート結果
レポート

みんなで考えよう

男女共同参画

市川三郷町男女共同参画推進委員会では、10月23日にフォーラムを開催。また、町民対象に「第2次男女共同参画プラン策定に関する町民アンケート」を実施しました。



「輝く笑顔 いちかわみさとフォーラム2011」は、町内での男女共同参画推進の意識啓発のため開催されています。みさとちゃん家でも、ママが出席したみたい。さっそく意識が高まったようですよ。



▼ママ 10月23日、私も所属している市川三郷町男女共同参画推進委員会では「輝く笑顔いちかわみさとフォーラム2011」を開催しました。



▼パパ ところで男女共同参画ってどういう意味だっけ？
▼ママ 「男らしさ」とか「女らしさ」とかのイメージに

とらわれずに、一人ひとりが考え方を理解しあつて、協力していこうという考え方ね。



▼ママ おーう、すごいな母さん！



▼ママ 現代人にとって、このくらいは当然よー！



▼パパ ところでフォーラムはどうだったんだい？



▼ママ 今回は2部構成になっていて、第1部では8月に募集した「輝く笑顔いちかわみさと川柳コンテスト」の表彰式があつたよ。



▼みさと みさとも出したけど、またまた落選しちゃった！残念！



大賞を受賞した内藤雅人さん（左）とコメントする受賞者

輝く笑顔いちかわみさと
川柳(標語)コンテスト
入賞作品

■大会大賞

赤ちゃんを
そっとかかえる カコメ

六郷中学校3年 内藤雅人

■男女共同参画推進委員長賞

キラキラと
輝くハハの 家事姿

市川高等学校3年 幡野佳奈

■教育委員長賞

工房を
母から父へ バトンタッチ

市川小学校6年 池谷実莉

家事をする
父の背を見て ほくもする

市川中学校1年 石原弘基

すてきたな
育児休暇をとる夫

市川高等学校1年 木下勝志

■三升会長賞

なべ洗う
パパの笑顔も くもりなし

市川小学校6年 依田更紗

母が寝て
ぬらりくらりと 家事の音

六郷中学校3年 望月優也

おかえりと
おたまで持つて 笑う父

市川高等学校3年 水地史江

■入選

初めての
父の料理に みな笑顔

上野小学校5年 戸田雄太郎

ほくのいえ
ばほとままで かじはんぶん

上野小学校2年 竹内勇斗

ふるあらい
ほくにまかせて おかあさん

市川小学校6年 村松和真



▼みさと みさとも来年こそは頑張っちゃうもんねっ！

1回目のコンテストの時から審査員として協力させていただいてますが、応募作品を見ていると年々上手になっています。私としても、とてもうれしいです。



三升会 望月健三会长



▼ママ 表彰式では、入賞者の皆さんに作品を作った時の情景をコメントしてもらったの。
▼みさと おー、それはありがた。来年のために参考にしたいのじゃー。
▼ママ テーマに合わせて言葉を探したのではなく、日頃の些細な情景や想い描く家族像を川柳にしてくれたらいいの。なんだかとても感動したわ。町の文化協会に所属している川柳三升会の望月会長もこんなことをおっしゃってたわ。



▼ママ さて、第2部よ。第2部では「えがりての会」による会話劇が行われたのよ。



えがりての会による会話劇「みたまの湯にて」



▼パパ ええ、たいしたもんだね。

▼ママ えがりての会は、「気を促す手段としてパフォーマンスを行っている旧三珠町出身のグループよ。もう活動を始めて5年目ですって。県内の多くのイベントでパフォーマンスを披露してるのよ。



▼パパ オー、トレビアーン！

▼ママ 「えがりて」っていうのはフランス語で平等っていう意味よ。



▼えがりて？



▼ママ 特に「みたまの湯にて」は人気演目でシリーズ化されているの。今回のフォーラムでも「みたまの湯にて」シリーズ第6弾、「みたまの湯に集まった仲間が、東日本大震災から？…さて…」というタイトルでパフォーマンスを行ったの。



▼パパ 東日本大震災からもう半年以上経つのかあ。



▼ママ もうじゃないのよ。まだ半年しか経っていないのよ。たった半年しか経過していないのに、あの時強く感じた家族や身近な人との絆について忘れかけてない？「えがりての会」のパフォーマンスはそんなことを気付かせてくれる良いきっかけになったわ。今回のフォーラムを振り返って町男女共同参画推進委員会の有泉妙子会長は、こんなことを言っていたわ。

周りの人々の中で生かされている自分を再認識し、毎日をつつがなく暮らせる小さな幸せがとても大切なことなのだと、改めて気付かされました。



町男女参画推進委員会
有泉妙子 会長

肩並べ

料理をふるまう 父と母
市川小学校6年 渡井彩未

父さんがときどき変身 コックさん
市川小学校6年 藤巻花

イクメンで育児も家事も分かち合い
市川小学校6年 村松香奈子

育児するなれた手つきの おとうさん
市川小学校6年 渡辺裕友

だいたいおとうさんは父さん りょうり長
市川小学校6年 遠藤岳

おとうさん りょうりをすれば ははは喜
市川東小学校4年 安田彰祐

家事をする 父の姿で 母笑顔
市川東小学校6年 伊藤勇矢

父と子で作るきょうざは フロなみだ
大塚小学校6年 村松夏彦

父の味 ダイナミックだ 母仰天
大塚小学校6年 深田峻介

家の中 母さん父さん 同じ位置
六郷中学校3年 笠井野乃花

性別を超えた未来に ある光
六郷中学校3年 土橋剛

ししじ本 弁当男子の 必じゅ品
市川中学校2年 池谷明莉

母の横 共に家事する 父の顔
市川中学校2年 西野優妃

手料理を作る父の背 頼もしい
市川中学校2年 武上詩多莉

不器用な父の料理は あたたい
市川中学校1年 座光寺成穂



町男女共同参画推進委員会
では、男女共同参画に関する施策の町の基本指針となる「第2次男女共同参画プラン」策定に向け、今年の夏、町民アンケートを実施しました。その集計の速報結果をお伝えします。

町民アンケートレポート
教育委員会

これからは女性自身の意識改革も必要

教育委員会では、土地柄や慣習の影響が大きいであろう地域の役を担う組長を対象にアンケートを行った。回答率は約68%で、年代は60代が最も多く次いで70代、50代だった。「男女共同参画」という言葉の認知度は約80%で、山梨県での認知度は72%を上回った。

「夫は外で働き妻は家庭を守るべき」の考えには反対派が賛成派を大きく上回り、男性では5倍、女性では8倍の差があった。

生活の各分野での男女の地位の平等感では、平等との答えがダントツに多かったのは「学校」で約60%、以下「家庭」「地域」「職場」「社会」と続いた。しかし、「地域」「職場」「社

会」の分野で「女性が優遇されている」と感じている女性はゼロだった。「女性に組長や区長を任せられるか」との問いには、「任せてよい」との答えが多かったが、「任せられない」と答えた人の理由で最も多かったのは「女性がひきうけない」という回答だった。

町民アンケートレポート
健康福祉部会

DVは身近に起りうる問題

健康福祉部会では、町内の事業所に勤める従業員の方を対象にアンケートを行った。今回のアンケートでは特に「DV（配偶者や恋人間などの暴力）」について質問をした。

アンケート結果から、DVと認められる行為でも、DVとしての認識が薄いものがある事が分かった。特にけがを伴うなどの肉体的な暴力はDVだと多くの方に認識されているが、交友関係や電話の相手を細かく監視するなどの精神的暴力については認識が薄く、今後広く知らせていく必要性を強く感じた。

また、有効回答者の1/6がDVを受けたことがあると答えており、

現実問題として身近に起こり得る問題だと分かった。町にはDVを受けた時などに相談に応じる職員がいるが、その認知度も低く、今後は推進委員会としてどのようなことができるか検討していきたい。

町民アンケートレポート
労働環境部会

さらなる男女共同参画推進の広報活動が必要

労働環境部会では、町内の事業所に勤める従業員の方を対象にアンケートを行った。年代は50代が最も多く次いで40代、30代だった。

「男女共同参画」という言葉の認知度は68%だった（若い世代は男女共同参画が当たり前の感覚で生活しているため、言葉としての認知度は低い傾向にある）。この結果を受け、今後広報を始めとしてさらなる推進活動をしていく必要があると感じた。その一つとして資料提供の場を設けることなども考えていきたい。

また家事・育児に専念する時間は、夫に比べて妻の方が平日・休日を問わず長く、妻の負担が大きかった。



- お弁当
母と父の「ラボです」
三珠中学校1年 五味奈美子
- 父と母
2人3脚 次の家事
三珠中学校1年 河野まどか
- 不器用に
育児に励む 父の顔
市川高等学校1年 磯野真子
- 安売りを
目指して走る 父の背中
市川高等学校1年 青柳美穂
- この社会
男も女も 主人公
市川高等学校1年 渡邊凌也
- 主婦と主夫
家事をしあって 学びあう
市川高等学校2年 矢崎翼
- 父の家事
似合わないけど かつこい
市川高等学校2年 佐野裕次郎
- 家事仕事
夫婦2人の いこいの場
市川高等学校2年 芦澤樹
- お父さん
家事に子育て おとつと
市川高等学校3年 名取優美
- うちのパパ フサイクだけど
イクメンじゃん
市川三郷町楠甫 笠井恵
- パパ料理
輝く星座 1ツ星
市川三郷町大塚 葉袋昭兵
- 育メンが
普通になった 良い世代
市川三郷町中山 有泉志づ子

入賞作品は12月中旬まで本庁舎1階のエントランスホールに展示しています。その後、役場各支所でも展示する予定です。

第18回 大門碑林 全国書道展 入選作品

(敬称略)

大会大賞受賞作品は堂々とした書体、篆書体の技術の高さを評価

今年も第18回大門碑林全国書道展の入賞作が出揃いました。大会には全国から4,146点もの作品が寄せられ、第1部(幼児・中学生)では菅野紗里奈さん、第2部(高校生以上)では長沼正子さんがみごと大会大賞の荣誉に輝きました。

審査委員長の山梨県書道会理事長である鈴木石蹤先生は「菅野さんの作品は紙面いっぱいに広がる堂々とした書体」「長沼さんの作品は難しい小篆の線から技術の高さが伺える」と評価しました。

(第1部)



菅野紗里奈 (一宮中3年)

大会大賞

(第2部)



長沼 正子 (南アルプス市)

山梨県知事賞



笠井 美雪 (南部中2年)

中国西安碑林博物館長賞



平本真理子 (駿台甲府中1年)

山梨県議会議長賞



小林 龍太 (八代小6年)

山梨県知事賞



駒井 妙子 (甲府市)

中国西安碑林博物館長賞



上山 泉 (甲斐市)

山梨県議会議長賞



岸 雅篁 (東京都)

山梨県教育委員長賞



加茂 壽文 (白根源小5年)

市川三郷町議会議長賞



菊島恋優姫 (竜王西小4年)

市川三郷町教育委員長賞



古屋 茉央 (御坂西小3年)

山梨県教育委員長賞



武井 志歩 (筑波大学)

市川三郷町議会議長賞



河内 華苗 (上野原市)

市川三郷町教育委員長賞



天野 舞子 (日川高校)

山梨日日新聞社賞



窪田 真衣 (甲運小2年)

山梨放送賞



遠藤のえる (石和第四保育所)

大東文化大学書道研究所賞



鈴木 優菜 (御坂西小1年)

山梨日日新聞社賞



宮川智奈津 (笛吹市)

山梨放送賞



丸茂 寿枝 (甲府市)

大東文化大学書道研究所賞



長田 真侑 (甲府西高校)

町役場女性職員 12 人で市川三郷町女性消防隊が結成されたのは今年 4 月。火災予防の啓発や独居老人の訪問、有事の際、女性ならではのきめ細かな気配りや対応が期待されての結成だった。また今年、女性消防隊にはもう一つの大きな目標があった。それは「第 20 回全国女性消防操法大会」への出場。本町で女性消防隊が全国大会に出場するのは、旧市川大門町の大同婦人消防隊が出場して以来 14 年ぶり。彼女たちの結成から全国大会出場までをレポート。



イチガンと なって望んだ 軽可搬式ポンプ操法

市川三郷町女性消防隊

全国女性消防操法大会出場までの記録



第 20 回
全国女性消防操法大会

全国女性消防操法大会とは、2 年に 1 回、それぞれ全国 47 都道府県を代表する女性消防隊が一同に集まりポンプ操法の技術を競う大会。使用するポンプは軽可搬式と呼ばれ 1 チーム 5 人で組まれま

す。全体の指示、ポンプの取り扱い、ホースの接続などを経て放水し、火点に見立てた 2 つの標的を落とすというもの。その行程の機敏さ、正確さ、タイムを競い合い全体の順位を決定する。

ほとんどの隊員が操法自体を見たことがなく礼式さえも知らないなか、最初は大きな戸惑いがあった。多くの隊員は入隊すること自体を迷ったが、迷った大きな理由は操法大会出場を懸念してのものだったという。



た。予備知識なし、ほぼゼロからのスタートだったため動きもぎこちなく本人たちも周りも不安な表情は隠せなかった。しかし峡南消防署員や消防主任の熱心な指導の下、次第に動きもさまになり操法の一連の動作を覚える段階までくると隊員の目つきも変わってきた。

初めてのタイム計測は 1 分 30 秒。全国レベルのタイムは 1 分を切ることを聞かされていた隊員たちは、週 2 回だった練習も隊員自らの申し出により週 3 回に増やし、それぞれの担当動作、そして連携を深める操作の練習を繰り返して技術の習得に励んでいた。それは補欠となったメンバーも同じで、いつ自分の出番が来ても良いように選手のサポートをしながら、自らの練習を欠かさず繰り返していた。そして本番 3 週間前、

愛するまちを守りたい
安心あふれるまちにしたい

消防団員募集 女性消防隊員募集

仕事を持ちながら、子どもを育てながら、地域の安心と安全のためにチカラを結束させた消防団員。さあ、皆さんも一緒に、愛するまちを守りませんか。

詳細は町総務課防災防犯係
☎ 055-272-1101 まで

町女性消防隊副隊長が 峡南消防本部北部署の 1日署長に！

峡南消防本部北部消防署では11月14日、秋の火災予防週間行事の一環として女性消防隊の天野敦子副隊長を1日消防署長に任命しました。天野副隊長は署内での朝礼に出席後、管内のスーパーなどで啓発グッズを配りながら火災予防を呼びかけました。



町民の痛みがわかる消防隊員に
町消防団 市川朝継 団長

すべてが初めての経験のなか、隊員たちは38回に及ぶ練習をよく耐え、大会出場まで頑張ってくれました。山梨県代表として胸を張れる立派な成績だったと思います。大会は終わりましたが、これからの活動こそが女性消防隊に期待されている役割です。結成まで産みの苦しみはありましたが、町民の痛みがわかる消防隊員に育ってほしいと願っています。

interview

支えてくれた全ての人に感謝
女性消防隊 丹澤昌世 隊長



練習は体力的にきつかったのですが、皆さんの応援のおかげでなんとか乗り切ることができました。指導していただいた消防署員や消防団員、わがままを聞いてくれた消防主任、応援してくれた関係者や家族、全ての方に心から感謝しています。また、普段何気なく感じていた消防団の苦勞も知ることができ良い経験になりました。



ついに目標である1分の壁を乗り越え、入賞を狙えるほどの操法を体で覚えていった。

そして、10月19日いよいよ本番当日。「いつもどおりの力を出せば入賞も夢ではない」指導に当たった消防署員、消防団、役場職員など全員が信じて選手を送り出した。大きな自信とは裏腹に、あまりの緊張で前の晩はほとんど寝ることもできなかったという隊員たちは、いざ本番一発勝負の舞台に立った。

「集まれ！」指揮者の気合の入った声が会場に響き「操作始め！」の号令と共に一斉に動き出す選手たち。機敏な動きと正確な動作で全ての操作は順調に進んだ。大きなミスもなく放水が始まり1番員が1つ目の標的を落とすとき、指導に当たった消防署員の手元のストップウォッチは今までの最高タイムをたたき出していた。「いける！」そう確信したという。続いて2つ目の標的に照準を絞ったとき、折からの向かい風が強さを増した。風にあおられた放水先は大きく広がり、激しい水しぶきを上げたため狙いを定めるのも難しく、さらに標的にかかる水圧も弱くなってしまった。放水先が当たってはいるもののなかなか落ち

ない標的。時間にすれば10秒程度だったと思うが、選手たち、それを見守る関係者たちにはとてつもなく長い時間に感じられた。

それでも何とか2つ目の標的を落とす、無事に操法を終了させることができたが、目標のタイムを大きくロスする結果となってしまった。しかし時間切れによって操法を中止させられる隊も出てくる中、選手たちは見事に操法をやり遂げ公式記録を残した。

長い緊張感から開放された選手たちだったが、残念ながら笑顔を見せることはなかった。悔しい気持ちはもちろんだが、今まで一緒に練習してきた補助の女性消防隊、指導してくれた消防署員、消防団員、影で支えてくれた家族、応援してくれた関係者たちの恩に報いるため、立派な成績を報告できないことを申し訳なく思う気持ちが強かったという。

こうして女性消防隊での初めての大きな挑戦は終了した。残念ながら目標にしていた入賞はならなかったが「何かに懸命に取り組むことの重要さ」「仲間と一丸になることの価値」「感謝する気持ちの大切さ」を、選手、関係者とも互いに再認識させられる価値ある経験となった。